

野比 のび助：「服従的態度」の発達的变化の検討
未来心理学研究 2018, 第 129 巻, 第 1 号, 130-141

人間形成コース 7 年 谷中久和

◇論文の概要

他者への服従は適応的な場合がある。しかし、服従に関連する行動およびその内的なとらえは他の心理領域の発達とともに変化しうる可能性があるため、それを計測する尺度開発および発達的变化を検討しにいった質問紙研究。発達段階に共通した変化と発達による変化の両者が明らかとなった。

◇イントロ

- ・他者への服従については大人においてその負の側面に注目して論じられてきた (Goda & Goda, 2002)
 - ・大人において他者への服従は自己にとって負の影響をもたらす
 - 例) 服従経験の多いものは自尊感情が低下 (骨川, 2012)
 - ほかにも, いくつか例 (自己効力感, 学業成績, 年収)
 - ・子どもにおいては一貫した結果が得られていない (出木杉, 2011; フニャコ, 2005)
 - ・××は○○○○で△△
 - ***** (出木杉, 2015)
 - ##### (出木杉, 2011)
 - ・△△は○○○○○○で×××
 - ***** (野比, 2003)
- <以下, 1 段落 1 「・」を基本としてまとめる。イントロの分量が少ない等で 1 段落に 2 つ以上の主張がある場合はわけて書くのも可>

・目的

- (1) 「服従の態度」の発達的变化の検討
- (2) 「服従の態度」の発達的变化とそれに影響する要因を明らかにする

◇方法

- ・小学生, 中学生, 高校生, 大学生, 成人 (平均 42.9 歳), 各 200-300 人程度
- ・調査項目
 - (1) 服従についての考え方 (尺度開発)
 - 質の先行研究 (野比, 2015) を参考に開発, 28 項目 5 件法

コメントの追加 [谷中1]: 書誌情報. 論文を配布する場合でもあり便利. ゼミ後, 資料と論文がばらばらになることもある.

コメントの追加 [谷中2]: 抄録やアブストラクトの丸写しではなく, 自分の言葉で簡潔にどんな論文かを説明できるとよい. 全部読んでから最後に書くのもありか. 2-3 行で簡潔に. スペースなければ省略も可.

コメントの追加 [谷中3]: 目的に至る論理構造を書く. 「・」1 つに段落の言いたいことを短く書き出すのが基本. この部分は研究計画書の項目で書いたのの逆をやる感じ.

コメントの追加 [谷中4]: 仮説がある場合は, その項目も追加. 目的と方法・結果の対応を考えながら発表するとわかりやすい. 論文がしょぼくて対応が悪い場合はその旨を指摘すればいい.

コメントの追加 [谷中5]: 詳しく書きすぎない. 論文を読めばわかる箇所は省略して, 発表時には論文のここを見る, といいながら発表するといいか. 大まかにやったことを理解できるような書き方がいい.

→論文・Table 1

(2) 服従に関する経験

→服従経験尺度 (野比, 2018), 12 項目 5 件法 (別添資料・野比 2018 参照)

(3) 自尊感情

→自尊感情尺度 (出木杉, 2011), 15 項目, 5 件法

(4) 自立的態度

→自立的態度尺度 (骨川, 2015), 15 項目 5 件法

・分析

- ・(1) について因子分析・妥当性・信頼性の検討
- ・(1) について尺度得点の年齢間・性別間比較
- ・(1) と (2) ~ (4) の単純相関, 重回帰分析

◇結果

・服従についての考え方尺度

→妥当性・信頼性 OK, 因子分析 Table 1

→3 因子構造「暴力回避」「自発的」「感情」

・服従についての考え方の発達的变化 (Table 2)

→発達段階が上がるにつれて, 年齢とともに「暴力回避」が↓「感情」が↑

・服従についての考え方と諸尺度の関連 (相関: Table 3, 重回帰: Table 4)

→小学生群では「暴力回避」が自尊感情, 自立的態度の「××」と負の関係

→中学生・高校生群では.....

<以下略>

◇考察

・服従の態度の発達的变化について

- 経験による学習効果?
- 成人と中高生でズレが生じている可能性
- 小学生はほかの年齢群と異なる傾向

・「服従の態度」の形成に影響を与える要因について

- 年齢群間で自立的態度の.....
- 発達段階に伴う自立的態度の変化とも連動?

<以下略>

◇批判点

- 因子構造大丈夫か, 大人の因子構造がほかの年齢群に当てはまるのか
- 成人の母集団偏ってないか
- 影響と言っているが, 重回帰や相関からそのようなことは言えないのでは? 理論的にも逆の矢印はあるか

コメントの追加 [谷中6]: 適宜本文を参照し, 発表時はレジュメに依存しすぎないようにする。

コメントの追加 [谷中7]: 論文の理解に必要であれば, 引用元の論文などより資料を用意しておく。

コメントの追加 [谷中8]: 初めての分析方法はわからないままにせず, ちゃんと調べて別資料としてまとめておくといい。卒論を進めるときの武器になる。ゼミメンバとこれらの資料を共有することで, 全体のレベルが上がる。

コメントの追加 [谷中9]: 1つの結果について, 端的にまとめる
細かな説明は論文の Table や図に投げ, 大事ことだけ書く。発表時は該当する table や図を見るように言って, 視覚的に内容を共有したい。

コメントの追加 [谷中10]: 本文で観点を絞って展開しているはずなので, それについて端的にまとめる。結果との対応がわかるととてもいい。結果の部分に考察を書きこんで混ぜ込んで資料を作る方法もあり。

コメントの追加 [谷中11]: 自己の意見を書く。ここがものすごく大事。問題点はないか。おかしな点について, 改善案があるとのおよし。